

お母ちゃんがかわいそうになった

僕は、母の前に頼んであった事だが、英会話の通信添削の送料の為替を

「明日、お願い。」と言っても、

母は返事せず、

「お父ちゃんに、払ってもらいなさい！」と言う。

今は家にはお金がない。

返したもらった僕のおこずかいのうち、千三百円を再び、お父ちゃんに渡して、為替を頼んだ。

自分のこずかいで、勉強の為にお金を出すなんて少し変な気持ちだが、今の家では仕方ない事だろう。

母の言ったことが気になった。

母は言った、「お金の為、いや生きてゆく為には、手段を選ばない、ただ、盗とをしなければいい。

他の事なら、どんな商売をしてもいい。」と言った。

他の事とは、一例に水商売がある。

昔、母はそれをしていた。

僕が小学校入る前だ。

そして、お店で、母は今のお父ちゃんと巡り会えた。

お父ちゃんは、僕等の義理のお父ちゃんだ。

僕が小学校二年の時、末っ子の幹夫が生まれ、

僕ら、上、三人も、入籍した。昔の事だ。